|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 団体名 |  | 活動地域 | ●●●● | 事業期間 | 2025年●●月 ～ ●●年●●月 |
| 事業名 |  | 総事業費 | ●●万円（自己資金を含めた額） |

■ 事業の背景（現状、社会課題、必要性など）

|  |
| --- |
|  |

■ 事業の目的（何を達成したいのか：5年後10年後など長期的なビジョン）

|  |
| --- |
|  |

■ 事業終了後（3年後）に達成したい成果や状況

|  |
| --- |
| 市町域における災害中間支援組織（機能）としての |
| 人材育成・フェーズフリー化 |  | 市町域における三者連携体制 |  | 地域でのネットワークづくり |
|  |  |  |  |  |

■ 上記のために実施する活動

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 活動内容（何をどのように行うのか具体的な活動） | ▶ | 直接対象グループ（事業で直接的に対象とする人々や集団） |
| ・・・・ | ・・・・ |

**個別相談シート作成にあたっての留意点：「事業の目的」と「事業終了後（3年後）に達成したい成果や状況」について**

**■ 目的と手段を混同しない**

　 目的と手段が混同する場合、事業の意図が曖昧になり、評価や判断が難しくなる可能性があります。

　 「目指す社会の状態：目的」に向けて事業を実施し、その結果「事業終了後（3年後）にどんな状態」であることを目指すのか、その状態になるにはどのような活動が必要なのかというフェーズ分けをして考えることで、整理がしやすくなります。

【混同した例】

* **目的**：子ども支援ネットワークを構築する
* **事業終了後（3年後）の状態**：賛同団体間で情報を共有できるプラットフォームアプリが完成

　　この例では、手段が目的になっています。なぜ子ども支援ネットワークが必要なのか、それが社会課題等にどのような解決をもたらすのかに触れられていないため、事業の真の目的が不明瞭です。

【適切な例】

* **目的**：困っている子どもに必要な支援が届けられるようにする
* **手段：**「見守り」「学習支援」「宅食支援」「いじめ相談支援」など、様々な活動団体を巻き込んだ子ども支援ネットワークを構築。困りごとや要支援情報を共有で
　　　きるアプリを開発して要支援児童の早期発見・早期対処ができるようにする。
* **事業終了後（3年後）の状態**：不登校児童の復学率が〇〇％向上する。専門支援機関との連携体制が構築される（情報共有会議を月1回開催）。
　　　　　　　　　　　　 いじめの相談件数が〇〇％向上し、解決率が〇〇％になる。など

　　この例では、目的・手段・事業終了後（3年後）の状態が、それぞれ独立しているので、事業の意図が明確になり、評価や判断、実施と進捗確認がしやすくなります。